

事業のタネシート

活動地域・団体名：株式会社YMFG ZONEプランニング

事業名称 1：ニホンアワサングを核としたエコツアーの実施		
あらすじ		
国内最大級の群生地を誇り、観光資源として魅力のあるニホンアワサングを活用し、観光客を呼び込み消費の拡大に繋げる経済循環に取り組む。		
ストーリー		
周防大島町は、美しいニホンアワサングの国内最大級の群生地であり、きれいな海や星空といった自然環境が最大の魅力であるが、観光客によるゴミ問題やニホンアワサングの減少といった課題が発生している。そこで、環境保全を学ぶとともに島の観光を楽しむエコツアー等のイベントを実施し、経済循環に繋げる。		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	観光客がニホンアワサングを通じて環境保全を理解しつつ、地域で宿泊を伴う観光消費を行い環境・経済・社会の課題を解決した持続可能な地域となる。	マリッサリゾートサザンセット周防大島、レノファ山口など、ありたい未来に共感し、連携するステークホルダーが現れてきているが、飲食店や交通事業者等、アイデアを実現するためにシナジーのある地域内事業者等と連携を深めていく必要がある。形成したネットワークを活用して、取組を牽引していくプレイヤーも必要。
②課題	国内最大級のニホンアワサング群生地を保全する取組促進、人口減少に対応するための関係人口増加、観光客の消費拡大に寄与する仕組みづくり。	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	島の魅力的な自然環境を生かしつつ、島の課題を解決し、持続可能な経済循環を実現するため。	
④地域資源	国内最大級のニホンアワサング群生地であり、瀬戸内海国立公園にも指定されている。地域ならではの食材も豊富。(みかん鍋、太刀魚の鏡盛り等)	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	地域資源を活用し、島への観光客増加、消費拡大を目的としたイベント等を実施する。(例：ニホンアワサング鑑賞のエコツアー等)	
⑥担い手 (Who)	周防大島高校、周防大島町、山口県東部海域にエコツーリズムを推進する会、サザンセット交通、マリッサリゾートサザンセット周防大島、地域の事業者等。	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	本取組を通じて生まれた消費の一部をニホンアワサング等の環境保全に充当することで、地域外からの関心を集めて観光客数増加に取り組むことで、地域経済の循環に繋げていく。	ネットワークを活用し、自社の利益と地域経済、双方の視点を勘案しつつ取組を牽引していける事業者が必要。
⑧事業で生じる成果	関係人口の増加、観光消費額の拡大、自然環境の保全に繋げる。	

事業名称 2 : 竹灯籠プロジェクト

あらすじ

周防大島町では過疎、高齢化で竹の一種であるモウソウチクが「放置竹林」となっている。「放置竹林」の削減に取り組みつつ宿泊客増加に繋げるため地域内の宿泊事業者が発案したアイデアをベースとした竹灯籠、竹細工等のイベントを行い、経済の循環を図る。

ストーリー

周防大島町では過疎や高齢化でミカンの段々畑の耕作放棄地が増え、そこに竹の一種であるモウソウチクが「放置竹林」となっているケースが多くみられる。「放置竹林」の多くは私有地のため、町による伐採も難しく、モウソウチクが密集した竹林になると、日光が地面に届かないことから他の樹木を枯らしてしまい、森林に比べると保水力が低いことから土砂崩れの恐れも高まる。そこで、地域内の宿泊事業者が竹を商材とした宿泊プランを作り上げ、ステークホルダーと連携することで観光客の誘客と持続可能な地域づくりを目指す。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	竹灯籠や竹細工等を取り入れた宿泊体験を通じて、「放置竹林」の課題解決と資源再利用という好循環を生み出す。	竹灯籠を加工する方法や竹炭としての利活用方法など、具体的なノウハウが不足しており、地域内の宿泊事業者単独ではイベントの遂行は不可能。企画の実現に向けてはステークホルダーと時間をかけた協議が必要となる。
②課題	竹林面積の拡大による土砂災害、鳥獣被害の発生。オフシーズンの観光客数落ち込み。	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	島に存在する竹を資源と捉えることで、観光客の呼び込みや地域内の経済循環に寄与することが期待されるため。	
④地域資源	竹林（山口県は全国第4位の竹林面積）、連携可能なホテル、竹の間伐を行っているNPO法人等。	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	竹灯籠や竹細工等を取り入れた宿泊体験を観光客に提供する。イベント後には竹炭として環境保全活動に再利用する。	
⑥担い手 (Who)	マリッサリゾートサザンセト周防大島、山口県東部海域にエコツーリズムを推進する会、周防大島高校、竹林間伐に取り組む地域内のNPO法人。	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	「放置竹林」を間伐するだけでは収入が無くボランティアや町の予算を必要としてしまう。観光資源として活用することで資源循環に繋げることができる。	竹林間伐を行うNPO、竹の活用にノウハウを有する企業・団体の支援が必要となる。
⑧事業で生じる成果	関係人口の増加、観光消費額の拡大、自然環境の保全等に繋がる。	

事業名称 3 : 水上アスレチックを核としたマリプレジャーの提供

あらずし

水上アスレチックを核としたマリプレジャーを提供することで観光客を呼び込むツールとし、自然豊かな海での体験を通じて海洋保全の機運醸成にも繋げていく。

ストーリー

海水浴だけでは周防大島町の観光資源として弱いため、水上アスレチックを観光客を呼び込むツールとして活用する。自然豊かで透き通った海での体験を通じて、保全活動の重要性や海洋生物への関心を高め、海洋保全の機運醸成に繋げていく。また、マリプレジャーを起点とし、釣り船事業者や水族館、民宿など、島の他の観光施設の利用にも結び付け、滞在時間の長期化と更なる観光消費額増加を目指す。

事業の骨子		現時点で想定される 課題・ボトルネック
①ありたい未来	マリプレジャーの提供を通じて海洋保全の機運醸成に取り組みつつ、島の観光消費額増加にも繋げていく。	水上アスレチック単体ではマネタイズが厳しいことが予想されるため、マリプレジャーとして整備の上、十分な広報活動に取り組む必要性がある。
②課題	島には自然豊かな海が広がるものの、観光客を呼び込むツールとしては弱く、特徴的な取組が必要。また、実現するためには一定の先行投資が必要となる。	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	海での体験を通じて海洋保全の機運醸成に取り組むことができ、島の観光消費額増加にも結びつけることができる。	
④地域資源	砂浜、海洋生物、水族館、民宿、遊漁船等、自然豊かな海にまつわる一連のコンテンツ。	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	マリプレジャーを起点とし、釣り船事業者や水族館、民宿など、島の他の観光施設の利用にも結び付けたサービスを展開する。	
⑥担い手 (Who)	水上アスレチック運営事業者、釣り船事業者、水族館、民宿等。	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	観光客数増加から、町内の観光施設の利用促進にも繋げることができる。	マリプレジャーの提供に知見のある有識者。
⑧事業で生じる成果	関係人口の増加、観光消費額の拡大、自然環境の保全等に繋がる。	